

## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ	平成6年3月23日	椎葉 小夜子	〒 810-0014 (住所) 福岡県福岡市中央区平尾1-13-32 (電話) 092-522-3104																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人西鉄学園	昭和37年2月27日	部谷 由二	〒 816-0922 (住所) 福岡県大野城市山田3-12-1 (電話) 092-586-2480																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																	
商業実務	商業実務専門課程	鉄道科	平成 7(1995)年度	-	平成26(2014)年度																	
学科の目的	鉄道に関する知識や接客サービス能力を身につけ、鉄道運転し、車掌、駅員等として活躍でき更に規律を守りストレス耐性のある人材を育成する。																					
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	・鉄道基礎、鉄道係員等の授業を通じ鉄道業界の知識、技術を身につけ、業界の就労を目指す。 ・国内旅行業務取扱管理者、国内旅程管理主任者。																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技															
2年	昼間	<small>※単位時間、単位いずれかに記入</small> ○○ 単位時間 125 単位	○○ 单位時間 105 単位	○○ 单位時間 26 单位	○○ 单位時間 10 单位	○○ 单位時間 ○○ 単位	○○ 单位時間 ○○ 单位															
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																		
80 人	44 人	1 人	100 %	0 %																		
就職等の状況	■卒業者数(C) :	17 人																				
	■就職希望者数(D) :	17 人																				
	■就職者数(E) :	17 人																				
	■地元就職者数(F) :	12 人																				
	■就職率(E/D) :	100 %																				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) :	71 %																				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) :	100 %																				
	■進学者数 :	0 人																				
■その他																						
<small>(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)</small> ■主な就職先、業界等 <small>(令和6年度卒業生)</small> 西日本鉄道㈱・九州旅客鉄道㈱																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無																	
評価団体 :	受審年月 :	評価結果を掲載したホームページURL																				
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.ibc.ac.jp/courses/rail.html">https://www.ibc.ac.jp/courses/rail.html</a>																					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A : 単位時間による算定) <table border="1"> <tr> <td>総授業時数</td> <td>○○ 单位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td> <td>○○ 单位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td> <td>○○ 单位時間</td> </tr> <tr> <td>うち必修授業時数</td> <td>○○ 单位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td> <td>○○ 单位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td> <td>○○ 单位時間</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td> <td>○○ 单位時間</td> </tr> </table>								総授業時数	○○ 单位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	○○ 单位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	○○ 单位時間	うち必修授業時数	○○ 单位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	○○ 单位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	○○ 单位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	○○ 单位時間
	総授業時数	○○ 单位時間																				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	○○ 单位時間																				
	うち企業等と連携した演習の授業時数	○○ 单位時間																				
	うち必修授業時数	○○ 单位時間																				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	○○ 单位時間																				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	○○ 单位時間																				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	○○ 单位時間																				
	(B : 単位数による算定) <table border="1"> <tr> <td>総単位数</td> <td>125 单位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td> <td>10 单位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の単位数</td> <td>3 单位</td> </tr> <tr> <td>うち必修単位数</td> <td>19 单位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td> <td>6 单位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td> <td>3 单位</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td> <td>2 单位</td> </tr> </table>								総単位数	125 单位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	10 单位	うち企業等と連携した演習の単位数	3 单位	うち必修単位数	19 单位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	6 单位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	3 单位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	2 单位
	総単位数	125 单位																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	10 单位																					
うち企業等と連携した演習の単位数	3 单位																					
うち必修単位数	19 单位																					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	6 单位																					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	3 单位																					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	2 单位																					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者				3 人																	
	② 学士の学位を有する者等				0 人																	
	③ 高等学校教諭等経験者				0 人																	
	④ 修士の学位又は専門職学位				0 人																	
	⑤ その他				0 人																	
	計				3 人																	
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育の質の保証及び改善をするため、教育活動の状況に関する評価を行い、業界の要請を十分にいかしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

即戦力となれるよう企業実習、業界見学を通し実際の企業等の求める接客を学び実践力としての技術を身につける。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校務運営規程に基づき教育課程編成委員会は理事会の下に置く。委員会で出た意見は、カリキュラム会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。

- ・校務運営規程第6章 教育課程編成委員会第11条
- ・校務運営規程第8章 校務分掌第14条

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
江里口 愛	THE BASICS FUKUOKA	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
山本 周史	株式会社西鉄ホテルズ	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
水城 弘幸	西鉄旅行株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
浜本 研三郎	株式会社JALスカイ九州	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
尾沼 雄一	株式会社JALグランドサービス九州	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
有隅 基樹	JR九州サービスサポート株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
伊賀上 恵子	公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	①
渡邊 洋二	公益財団法人産業雇用安定センター	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	①
田中 友加利	教務部長(兼鉄道科学科長)	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	—
牟田口 真理子	学科長(国際ホテルマネジメント科)	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	—
長野 美穂	学科長(ホテル・ブライダル科)	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	—
原田 歩	学科長(エアライン科)	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	—
池田 香織	学科長(国際ビジネス科)	令和7年4月1日～令和7年3月 31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月7日 10:00～12:00

第2回 令和6年9月6日 10:00～12:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

(意見)就職の早期化も伴い社会と早く関わる機会を設ける方がよい。

(改善)夏休み期間の選択実習の実施。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校教育に理解があり、後継者育成の一環として実務の経験ができる場を積極的に提供し、学習成果の評価を行う体制を取ることが可能な企業を選定している。また、学校が教育している知識や技術等の習得が可能かつ後継者の育成に力をそそぐ企業への新規開拓も実施している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習の実施前に打ち合わせを行い実習内容詳細について決定する。実習期間中、担任が各企業を訪問し、学生の学習状況について直接確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。

実習終了時には、実習担当者による学生の学修成果の評価をふまえ、担任が単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企 業 連 携 の 方 法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
企業実習1	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	授業で学習した理論と実技の一体化を目的とし、社会人としての厳しさ、基本的な業界の知識や技術の習得を目的とする	西日本鉄道、九州旅客鉄道
企業実習2	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	授業で学習した理論と実技の一体化を目的とし、社会人としての厳しさ、基本的な業界の知識や技術の習得を目的とする	西日本鉄道、九州旅客鉄道
鉄道施設概論	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	鉄道施設の基礎を学ぶとともに安全について学ぶ	九州旅客鉄道
鉄道駅実務	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	鉄道業務全般及び駅業務の概要、役割等を学ぶ	マック24
サービス介助士	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	高齢者や障がいをお持ちの方への介助法を学ぶ	日本ケアフィット共育機構

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に基づき職務の遂行に必要な知識及び技能等を習得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図る。

・教職員規程 第1章及び第2章研修計画(教職員研修規程 第2章 第6条による)

(1)学校及び部室主催の研修 年1回以上

(2)関係団体や業者が主催する研修 不定期年1回以上

(3)校長により承認された業界実習や通信教育等の自己啓発研修 適宜

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	業界見学	連携企業等:	西日本鉄道(株)
------	------	--------	----------

期間:	2024/7/2～2024/7/2	対象:	教職員
-----	-------------------	-----	-----

内容	運転シミュレータ体験、車掌体験、卒業生との意見交換、企業説明
----	--------------------------------

研修名:	業界見学	連携企業等:	九州旅客鉄道(株)
------	------	--------	-----------

期間:	2024/10/22～2024/10/22	対象:	教職員
-----	-----------------------	-----	-----

内容	唐津乗務センター見学、企業説明
----	-----------------

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	就職セミナー	連携企業等:	JR九州サービスサポート(株)
------	--------	--------	-----------------

期間:	2025/1/16～2025/1/17	対象:	教職員
-----	---------------------	-----	-----

内容	就職面接時における企業側の視点を知り、今後の指導についてのアドバイスを頂く
----	---------------------------------------

研修名:	役付研修	連携企業等:	(株)イーニーズ
------	------	--------	----------

期間:	2024/12/16～2024/12/16	対象:	教職員
-----	-----------------------	-----	-----

内容	コーチング概論、演習
----	------------

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	業界見学	連携企業等:	西日本鉄道(株)
------	------	--------	----------

期間:	2025/7/2～2025/7/2	対象:	教職員
-----	-------------------	-----	-----

内容	運転シミュレータ体験、車掌体験、卒業生との意見交換、企業説明
----	--------------------------------

研修名:	業界見学	連携企業等:	甘木鉄道(株)
------	------	--------	---------

期間:	2025/10/21～2025/10/21	対象:	教職員
-----	-----------------------	-----	-----

内容	甘木駅の見学等
----	---------

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	就職セミナー	連携企業等:	JR九州サービスサポート(株)
------	--------	--------	-----------------

期間:	2026/1/15～2026/1/16	対象:	教職員
-----	---------------------	-----	-----

内容	就職面接時における企業側の視点を知り、今後の指導についてのアドバイスを頂く
----	---------------------------------------

研修名:	役付研修	連携企業等:	(株)イーニーズ
------	------	--------	----------

期間:	2025/9/11～2025/9/11	対象:	教職員
-----	---------------------	-----	-----

内容	ヒューマンスキル向上、対話力の向上
----	-------------------

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

職業教育を通して人間性を高め、自ら道を切り拓き、多様化する社会に貢献できる人材を育成することを教育理念とし、教育の質の保証・社会に対する説明責任と学校評価を通じガバナンス改善に向けた取組を促進していくことを目的する。自己評価結果の客観性・透明性を高め、学校と密接に関係する者の理解促進や教育活動・学校運営に活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念、教育方針・目標・育成人材像
(2)学校運営	・運営方針・事業計画・組織運営・人事、給与制度・意思決定システム・情報のシステム化
(3)教育活動	・教育課程の編成方針、実施方針・教育課程・キャリア教育・授業評価・成績評価・修了認定基準・資格の位置づけ・教員研修・組織体制
(4)学修成果	・就職率・資格の取得率・卒業生の社会的評価
(5)学生支援	・就職等進路に関する支援組織体制・退学率等の低減・学生相談・経済的支援体制・健康管理・課外活動・保護者、卒業生との連携体制
(6)教育環境	・施設、設備、教育用具等・実習、海外研修等・防災組織体制・安全管理体制
(7)学生の受入れ募集	・学生募集・入学選考基準・学納金
(8)財務	・収支状況
(9)法令等の遵守	・法令に基づく学校運営・個人情報保護・自己評価・学校関係者評価・情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	・社会貢献、地域貢献の実施・ボランティア活動の奨励と支援
(11)国際交流	・国際交流の取り組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

昨今の観光業界の求める人材像を伺い、学生指導やカリキュラム作成に反映させている

(意見)退学者減少のための「定着と育成」を実施する必要性

(活用)相談をしやすい環境作りのため副担当をつくり担任だけでなく多くの教職員が関りをもつようにした

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
江里口 愛	THE BASICS FUKUOKA	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
山本 周史	株式会社西鉄ホテルズ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
水城 弘幸	西鉄旅行株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
浜本 研三郎	株式会社JALスカイ九州	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
尾沼 雄一	株式会社JALグランドサービス九州	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有隅 基樹	JR九州サービスサポート株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
伊賀上 恵子	公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地方団体等委員
渡邊 洋二	公益財団法人産業雇用安定センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地方団体等委員
平野 孝幸	一般財団法人福岡県学校安全振興会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長経験者
松藤 大助	日本郵便株式会社 竹下郵便局	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.ibc.ac.jp/about/schoolinfo.html>

公表時期: 令和7年11月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の情報をホームページ等において開示し、企業の関係者等に職業人を育成する本校の教育内容について理解を求め、企業関係者と連携を図り業界のニーズを踏まえた授業内容や方法の改善につなげたい。企業等の学校関係者との連携をし、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を、具体的に分かりやすく、提供するものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・建学の精神 ・教育方針 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム、年間授業スケジュール ・資格
(3)教職員	・教員の担当科目、担当学年
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育 ・企業実習 ・就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事 ・課外活動(部活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援(健康診断、学生相談等)
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・経済的支援措置(奨学金、授業料減免等)
(8)学校の財務	・収支状況
(9)学校評価	・自己点検、評価、学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外実習 ・外国の学校等との交流 ・外国人留学生
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(募集要項))

URL: <https://www.ibc.ac.jp/about/schoolinfo.html>

公表時期: 令和7年11月1日

**授業科目等の概要**

(商業実務専門課程 鉄道科)													
必修	分類		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携
	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技			
1	○		鉄道概論	鉄道業界の保安システムの概要と役割を学ぶ。鉄道業界の車両及び、九州の私鉄を学ぶ。	1 通 2 通	120	8	○	△		○	○	
2	○		鉄道基礎	鉄道運行に携わる各係員の概要を学ぶ。鉄道運行の仕組みについて学ぶ。鉄道係員の役割と責任、心構えについて学ぶ。	1 通	60	4	○			○	○	
3	○		鉄道係員	鉄道運行に携わる各係員の概要を学ぶ。鉄道運行の仕組みについて学ぶ。鉄道係員の役割と責任、心構えについて学ぶ。	1 通	60	4	○	△		○	○	
4	○		鉄道施設概論	鉄道施設の基礎を学ぶ。鉄道に係る施設保持の使命及び知識を身に付ける。	1 前	30	2	○	△		○	○	○ ○
5	○		鉄道駅実務	鉄道業界の動向、経営、運営概況を学ぶ。鉄道駅業務の仕組み、内容、役割を理解し基本知識スキルを学ぶ。	1 前	30	2	○	△		○		○ ○
6	○		鉄道営業規則	鉄道営業の基本となる乗車券類の取扱いルール、各種サービスを学ぶ。	1 前	30	2	○	△		○		○ ○
7	○		時刻表	JR時刻表を使用し、お客様案内に必要な知識を習得する。旅行プランを計画する。	1 前	30	2	△	○		○	○	
8	○		国内地理 I・II	国内観光資源を学ぶ。観光地・温泉・祭り・名産品などカテゴリー別に観光資源を学ぶ。	1 前	60	4	○			○		○
9	○		鉄道車両 鉄道車両 I・II	鉄道車両の基本的な仕組みを理解し、運転理論・車両技術等の専門知識を身につける。	1 後 2 前	90	6	○	△		○	○	
10	○		交通論	交通の基礎理論、知識を習得するとともに、交通業界、特に鉄道業界の運営状況、経営課題等を認識し、鉄道従事員となるための資質の育成向上を図る。	1 後	30	2	○			○		○ ○
11	○		鉄道旅行プランニング	時刻表とインターネットを使って日本各地への旅行を企画します。	1 後 2 後	60	4	△	○		○	○	
12	○		鉄道業界研究	志望企業の企業理念・財務諸表を理解し、エントリーシート・面接対策を行う。	1 後 2 前	60	4	○			○		○
13	○		サービス介助士	サービス介助士2級試験合格のため知識と実技を習得する	1 後	30	2	○	△		○		○ ○
14	○		鉄道実務	鉄道運行に伴う各職種別の異常時取扱を学ぶ。異常時対応能力及びお客様対応能力及びお客様対応能力向上を目指します。	2 通	60	4	○	△		○	○	
15	○		就職活動講座	就職活動の流れを知り、自己分析・企業研究を行い、就職できる力をつける	1 通 2 前	90	6	○	△		○		○

16	○		就職筆記対策 I・II	就職筆記試験に合格できる力をつける	1 通 2 前	180	12	○			○		○
17	○		ビジネスマナー	社会の仕組みを理解し社会人としてのマナーを身に付ける	1 通	60	4	○			○		○
18	○		ペン字	演習により、美しい文字を習得する	1 後	30	2	△	○		○		○
19	○		TOEIC/英検対策 I	TOEIC/英検の資格取得を目指す	1 通	60	4	○	△		○		○
20	○		TOEIC/英検対策 II	TOEIC/英検の資格取得を目指す	1 通	60	4	○	△		○		○
21	○		面接対策	就職試験における面接試験に合格できる力を習得する	1 後 2 前	60	4	△	○		○		○
22	○		第二外国語（韓国語）	韓国語の会話能力を習得する	1 通	60	4	○	△		○		○
23	○		第二外国語（中国語）	中国語の会話能力を習得する	2 通	60	4	○	△		○		○
24	○		サービス接遇検定対策	サービス接遇検定2級に合格する。社会人としての心構えを身につける。	2 前	30	2	○			○		○
25	○		手話	演習を通して手話能力を習得する	2 通	60	4	△	○		○		○
26	○		コンピュータ	文書作成・表計算の基礎知識を習得する	2 通	60	4	△	○		○		○
27	○		コミュニケーショングリッシュ	演習を通して英会話能力を身につける	2 前	30	2	○	△		○		○
28	○		コミュニケーション学	講義・演習を通し、コミュニケーションの大切さを学ぶ。	2 後	30	2	○	△		○		○
29	○		フレッシャーズ教育	社会人になる前の心構えや準備を行う。課題解決できる力を身に付ける。	2 後	30	2	○	△		○		○
30	○		サービス介助士2級 講習	サービス介助士2級試験合格のため知識と実技を習得する	1 後	15	1	△	○		○		○
31	○		L H R	学校生活における調和と自己啓発を図る	1 通 2 通	120	8		○		○		○
32	○		行事I	行事によって調和と自己啓発を図る 新入生オリエンテーション1・2・3／スポーツ大会／業界見学1	1 前	30	1	△	△	○	△	○	○
33	○		行事II	行事によって調和と自己啓発を図る 業界見学2／研究発表会／ボウリング大会／就職強化セミナー1・2	1 後	30	1	△	△	○	△	○	○

34	○		行事Ⅲ	行事によって調和と自己啓発を図る 業界見学3／2年次オリエンテーション／ スポーツ大会／研究発表会／ボウリング大 会	2 後	30	1	△	△	○		○	○	○	○
35	○		研修旅行	旅行を通じて業界への理解、クラスの親睦 を深める	1 後	30	1			○		○	○	○	○
36	○		企業実習1・2	1週間の現場での実習を行い、サービススキ ルを習得し業界への理解を深める	2 前	60	2			○		○	○	○	○
37		○	国内管理者対策	国内旅行業務取扱管理者試験合格のため知 識を習得する	1 前	15	1	○			○		○	○	
38		○	国内管理セミナー1～3	国内旅行業務取扱管理者試験合格のため知 識を習得する	1 後 2 後	180	12	○			○		○	○	
39		○	国内旅程管理研修	国内旅程管理主任者（添乗員）の資格を取 得する。	1 後	15	1	○	△		○	○	○	○	
40		○	企業実習1・2	1週間の現場での実習を行い、サービススキ ルを習得し業界への理解を深める	1 後	60	2			○		○	○	○	○
41		○	企業実習3・4	1週間の現場での実習を行い、サービススキ ルを習得し業界への理解を深める	2 前	60	2			○		○	○	○	○
42		○	就職実践セミナー	未内定者にむけて今後の方向性を改めて確 認し内定を得るために対策を行う。	2 後	15	1	○	△		○		○		
43		○	卒業論文	講師の指導の下、関心のあるテーマについ て卒業論文作成を行う。	2 後	15	1		○		○		○		
合計						36	科目			125	単位	(単位時間)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 1700単位時間（110単位）以上の授業を履修し単位認定をされること	1学年の学期区分	2期
履修方法： カリキュラムの必修授業の履修及び選択必修授業の中から履修する。	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合  
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

鉄道科 教職員一覧

教職員名	主な担当科目
花生 義一	鉄道概論
友納 真	時刻表
田中 友加利	ビジネススマナー
金森 和彦	サービス接遇検定
種生 稜	鉄道施設概論
西 政明	鉄道駅実務
山本 真美	国内地理
三石 佳代子	鉄道業界研究
北村 正雄	就職筆記試験対策Ⅰ
前田 恭子	就職筆記試験対策Ⅱ
橋本 美智子	面接対策対策
江口 由香	手話
乙咩 清美	コンピュータ
吉良 牧子	コミュニケーション学
権 京愛	韓国語
青山 祐子	中国語
挽田 雅子	TOEIC
平島 千華	英検対策
日高 郁子	英検対策
加藤 亜希	英検対策
脇谷 奈々	英検対策
猪口 明日香	英検対策